



株式会社 立花エレクトック

C.C.J2200 100th Anniversary in 2021

変革・挑戦・飛躍
Change, Challenge, Jump-up

**個人投資家向け
会社説明会**

東証1部 証券コード **8159**

2019年3月12日

目次

- 会社概要 p.2
- 2019年3月期第3四半期の業績 p.8
- 2019年3月期の業績予想 p.10
- 配当金の推移 p.14
- 2019年3月期の重点施策 p.15
- 人基軸経営 p.22
- 中長期経営計画『C.C.J2200』 p.26
- 株主優待制度、株価推移等 p.30

会社概要

社名	株式会社 立花エレクトック	証券コード	8159 (東証1部)
創業	1921(大正10)年9月1日	発行済株式数	26,025千株
代表者	代表取締役社長 渡邊武雄	株主数	5,715名
本社所在地	大阪市西区西本町 1-13-25	大株主	三菱電機 (7.6%) サンセイテクノス KBL EPB S.A. 107704 三菱UFJ銀行 日本マスタートラスト信託
資本金	58億74百万円		
従業員数	単体 842名 (連結 1,329名)		
連結売上高	1,783億24百万円 <18年3月期>		
事業内容	産業用電機・電子の商品、システムを販売する技術商社		
事業所	支社:東京、名古屋 支店:14 営業所:1 物流センター:1		

* 国内、海外子会社は次ページ参照

[2018年9月末現在]

国内 5社

研電工業(株)

(株)立花宏和システムサービス

(株)大電社

(株)立花デバイスコンポーネント

(株)高木商会

海外 8社

立花オーバーシーズホールディングス社 (TOH)

タチバナセールス(シンガポール)社

タチバナセールス(香港)社

台湾立花股份有限公司

立花機電貿易(上海)有限公司

タチバナセールス(韓国)社

タチバナセールス(バンコク)社

タチバナセールス(インドネシア)社



FAシステム事業

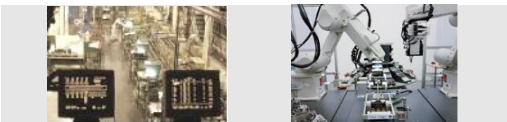
■FA機器

PLC、インバーター、ACサーボや配電制御機器さらに各種モーターの販売。



■FAシステムソリューション

生産設備を監視・計測・制御するシステムの構築やソリューションの提供。またロボットシステムの販売。



■産業メカトロニクス

放電加工機、レーザー加工機 またマシニングセンターなどの各種工作機械や3Dプリンターの販売。



■産業デバイスコンポーネント

デジタル接続機器やコネクタ等の入出力機器 また FAパソコンやネットワーク機器の販売。



トータルソリューションで
お客様の課題を解決



半導体デバイス事業

規格品からユーザー仕様までニーズに合わせた半導体や電子デバイス製品の販売。さらにマイコン・ASICやカスタムLSIの設計開発。



施設事業

工場やオフィスビル・店舗における照明、空調、エレベーターや防災設備機器。また省エネに優れたオール電化製品の販売。



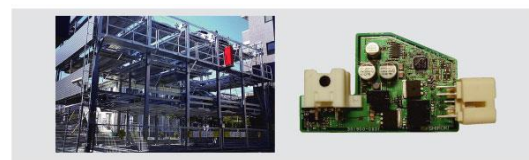
海外事業

主に中国やアセアンなどのアジアに半導体、FA機器、放電加工機・レーザー加工機などの産業メカトロニクス製品の販売。



MS事業

電子機器の基板から完成品までの設計・製造受託(EMS)と立体駐車場や鉄道車両に使用される金属部材の加工・製造受託(MMS)。

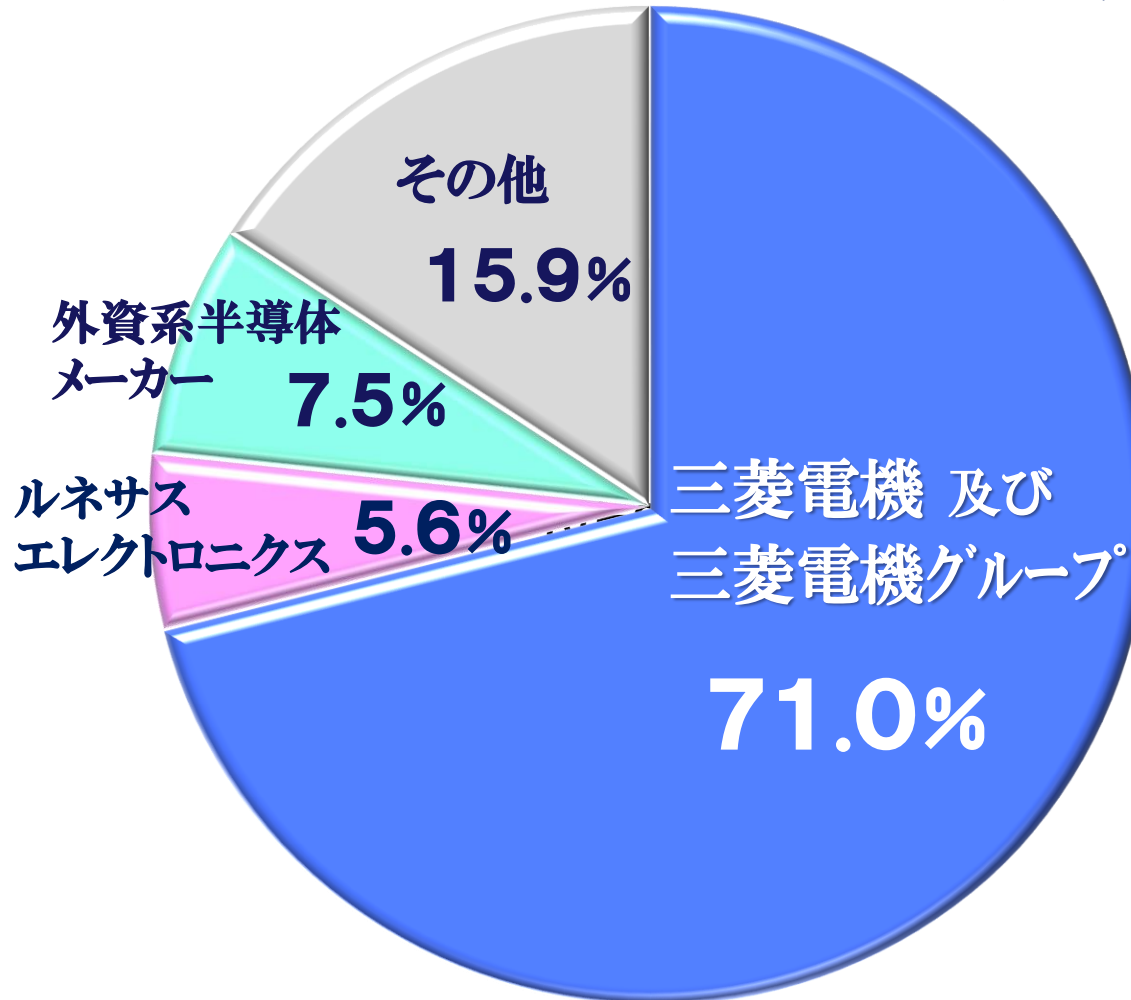


沿革概要

- 1921年9月** 電気関係製品の卸売業と電気工事業を目的として創業
- 1944年8月 電気工事部門が母体となり近畿電気工事(株)(現きんでん)設立
- 1947年7月 三菱電機(株)と特約店契約を締結
- 1948年7月 (株)立花商会設立
- 1962年3月 三菱電機(株)と代理店契約を締結
- 1982年8月 シンガポール駐在員事務所開設(海外進出)
- 1986年5月 大阪証券取引所市場第二部特別指定銘柄(新二部)に上場
- 1990年9月 大阪証券取引所市場第二部銘柄に指定
- 2001年9月** (株)立花エレクトックに商号変更～創業80周年
- 2004年3月 東京証券取引所市場第二部に上場
- 2005年3月** 東京証券取引所・大阪証券取引所市場第一部に指定
- 2010年4月 (株)大電社(JQ)をTOBにより完全子会社化
- 2012年3月 海外統括会社立花オーバーシーズホールディングス社を設立
- 2012年6月 (株)高木商会と資本業務提携～持分法適用会社へ
- 2012年12月 (株)立花デバイスコンポーネント設立(ルネサスから無償で事業譲渡)
- 2014年12月 (株)高木商会を連結子会社化(81.18%)
- 2015年5月 中長期経営計画「C.C.J2200」スタート

仕入先別構成比

〈2019年3月期 第2四半期〉



「製品」と「技術」をトータルで提供する「技術商社」

提案・開発力と調達力

顧客ニーズに対し、技術提案をもって応え、優れた製品と高いアプリケーションエンジニアリング・サービスをご提供

豊富な技術者と高い技術力

200余名の技術者が在籍、専門的な知識や最新技術・製品情報を持ち、製品開発のサポートやソリューションをご提供

幅広い製品をラインアップ

FA機器、半導体・電子デバイスをはじめ製造ラインの生産設備、環境・省エネ機器、ビル設備品など幅広い製品を取り扱う

2019年3月期 第3四半期の業績

2019年3月期第3四半期決算概要

【連結業績の概況】

～好調な環境と施策(C.C.J2200、C.A.P.1500)による成果で増収増益～
FAシステム、半導体デバイス、施設の主要3事業を中心に好調に推移

- ◆ FAシステム事業は、半導体・液晶製造装置関連並びに自動車関連の設備投資需要を背景に堅調。
- ◆ 半導体デバイス事業は、民生分野向け半導体が伸長。
- ◆ 施設事業は、製造業における工場の増設や建て替えの動きに伴う案件が増加する中、人材先行投資の成果が現れ、大幅に伸長。
- ◆ 海外では、中国市場において半導体分野に減速感。

【連結業績ハイライト】

3Q期では過去最高

(単位:億円)

主要科目	2018年3月期3Q	2019年3月期 3Q	増加額	前年同期比(%)
売上高	1,297	1,334	37.3	102.9
売上総利益	170	179	9.1	105.4
営業利益	44	47	3.1	107.0
経常利益	47	51	4.1	108.8
親会社株主に帰属する 四半期純利益	32	36	4.5	114.3

2019年3月期の 業績予想

2019年3月期 業績予想

売上高は15年ぶりに
過去最高を更新

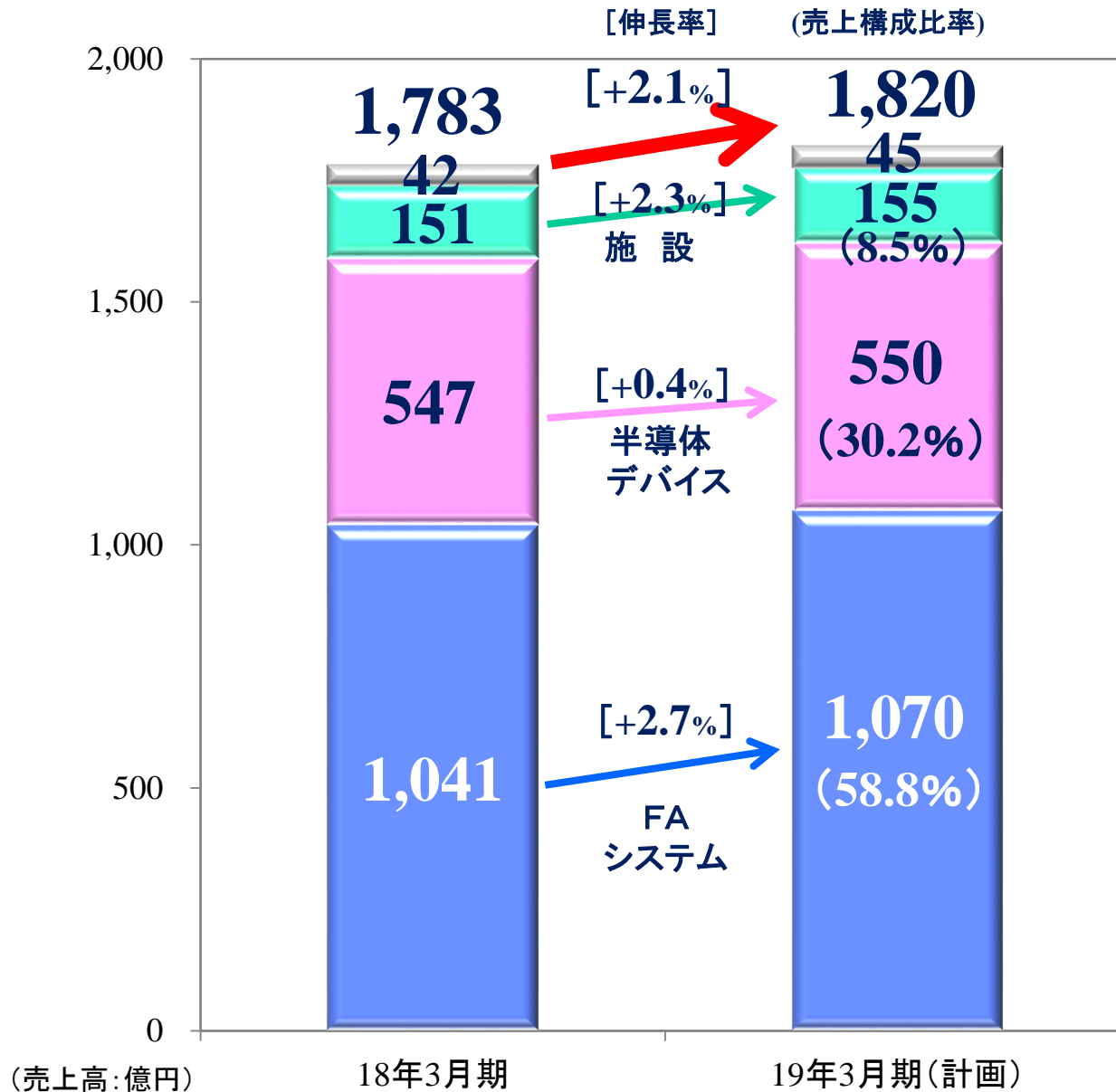
【業績予想(連結)】

(単位:億円)

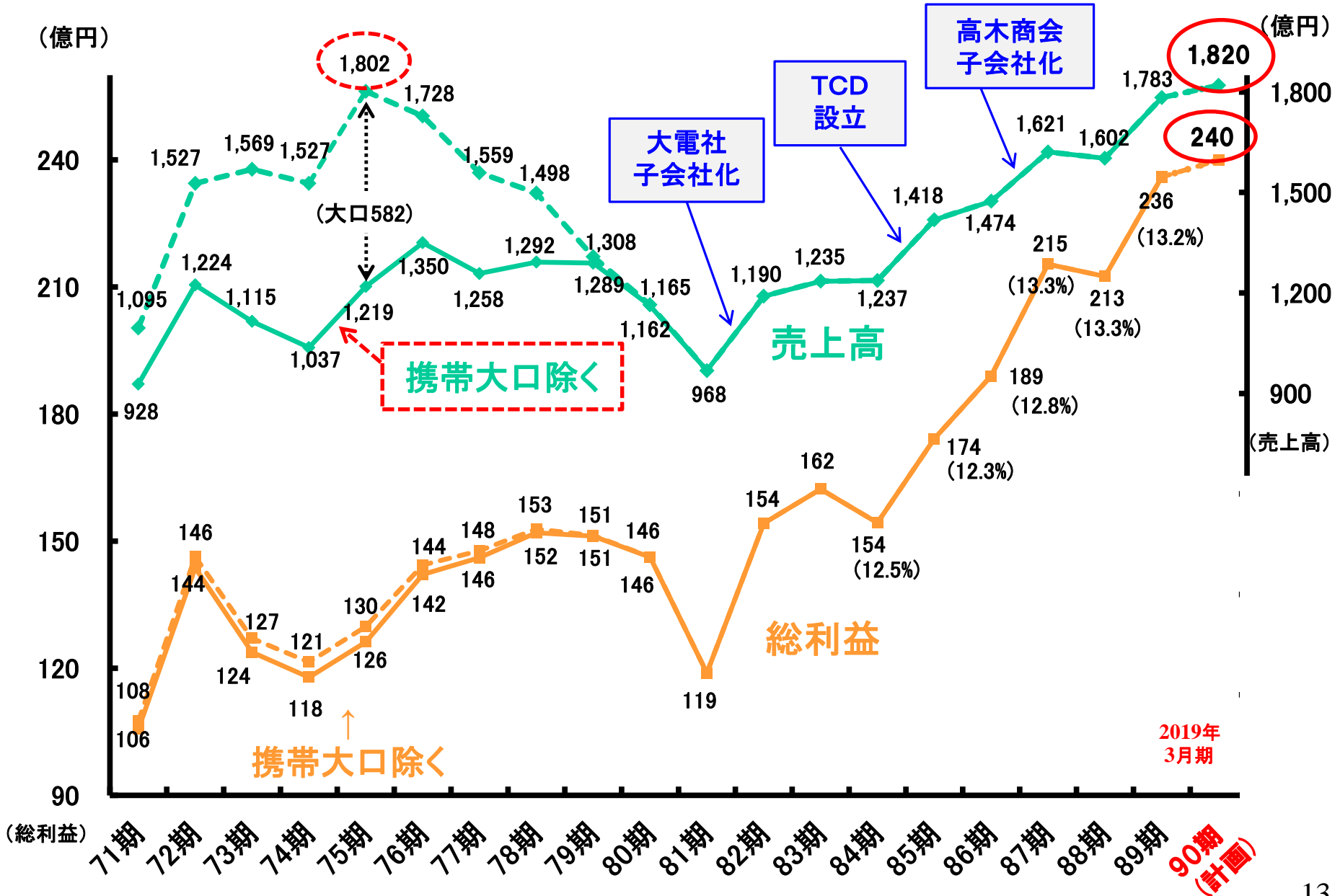
主要科目	2018年3月期	2019年3月期予想	前期比(%)
売上高	1,783	1,820	102.1
営業利益	64	65	100.9
経常利益	66	67	101.4
当期純利益	45	46	101.3

過去最高を更新

セグメント別 売上高 (連結) の対比



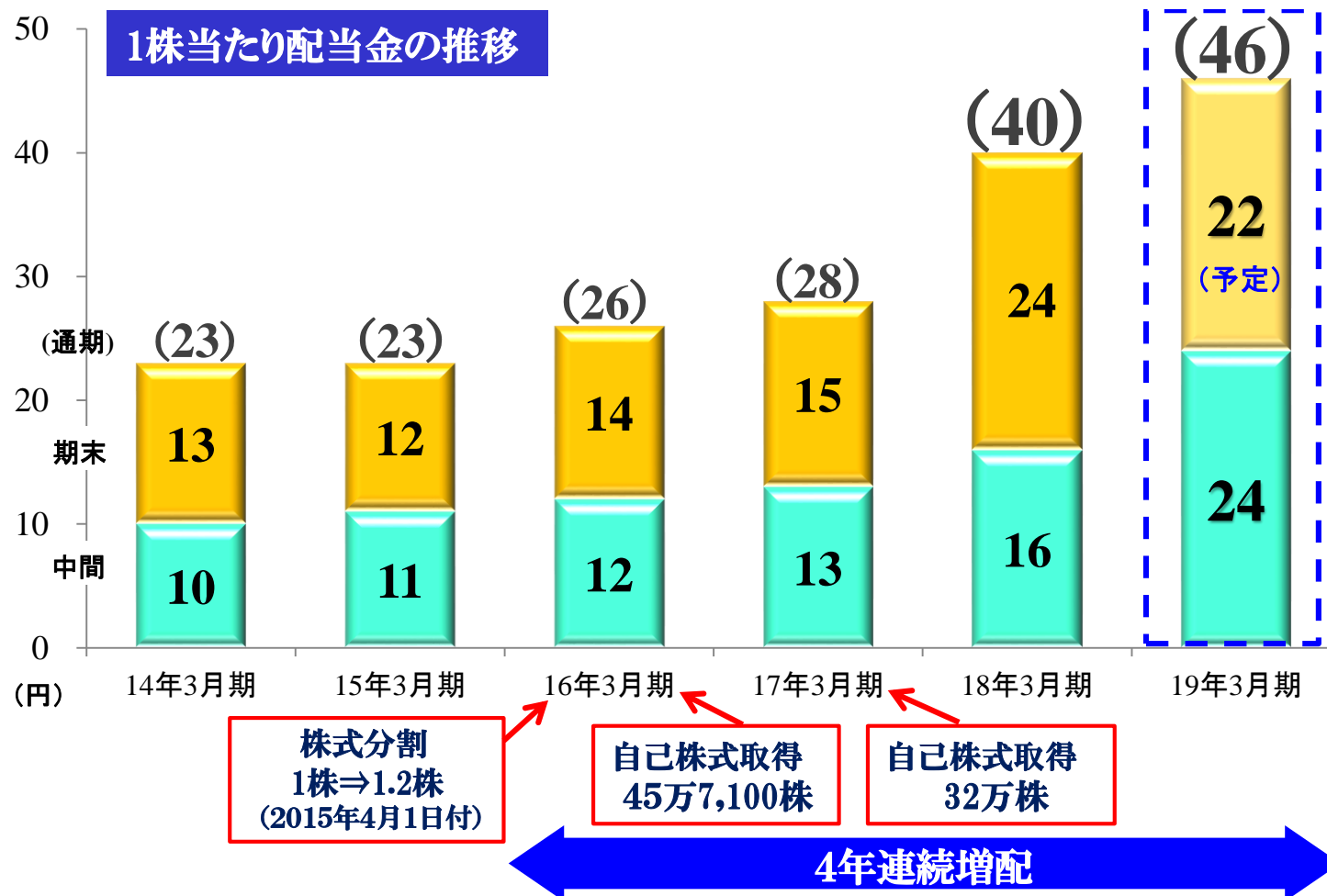
売上高・総利益の推移(連結)



配当金の推移

* 中間で**2円増配**を発表

中間(22円+**2円【増配】**)=24円) + 期末予想(22円)
= 年間予想(44円+2円=**46円**)に増配。



2019年3月期の 重点施策

AI・IoT時代を迎え、「M2Mシステム技術」に強い立花エレテックグループを目指す

「M2M」とは、『**機械間通信**』

製造現場には、多くのロボットを含む製造ラインや設備機械が存在、これらを**機能的に連動させて生産性の向上を図る**

*「M2M」実現のための取り組み施策

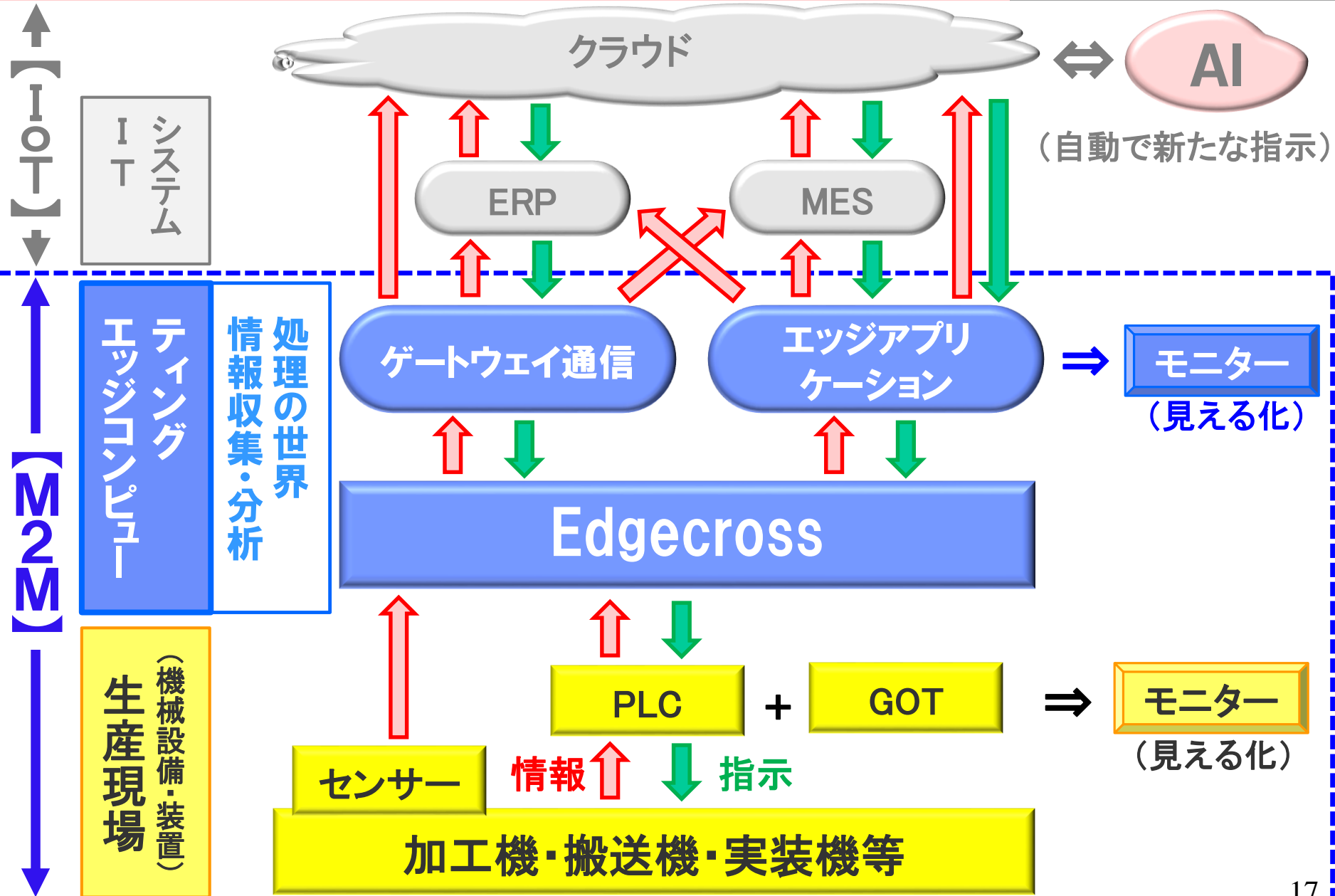
- ▶ 産業用ロボットを活用したシステムソリューションへの注力
- ▶ エンベデッド等IoT/M2M関連製品の品揃えの充実
- ▶ 産業分野での「M2Mシステム技術」の習得と確立

キーワード

『**コネクティング**』

- 新旧の機械、装置をコネクティング
- 異なる通信規格をコネクティング

当社グループが取組む「M2Mシステム技術」の領域



立花エレテックグループとして 大規模展示会に出展（4年連続出展予定）

～出展テーマ～

- **CEATEC JAPAN** 「近未来工場」をコーディネート
- **関西工場設備・備品展** 「工場のお悩みを」解決
- **Embedded Technology** 「つなぐ」技術でM2Mをサポート

■立花エレテックグループの保有技術を結集し、更に高めていく

〈グループ会社の強み〉

- 立花エレテック ⇒ **制御・監視技術**
- 高木商会 ⇒ **組込技術**
- 大電社 ⇒ **画像処理技術**

▶ **大規模展示会に継続出展しながら技術に磨きをかける**

「CEATEC JAPAN 2018」当社ブース



オープンプラットフォーム
「Edgecross」を用いた
生産現場とITシステムとの連携



ロボットとAGV(自動搬送車)の
連携にAI判定を組み合わせた
『ミニチュア工場』を再現



～近未来工場をコーディネート～

3Dプリンター普及促進

3D積層造形によるモノづくり革新拠点化構想

◆ 3D3プロジェクト（全国45公設試連携）



◆ 金属3D：三次元異方性カスタマイズ



◆ 3D造形のデザイナー、プレイヤーネットワーク



◆ 3Dレーザーコーティング技術



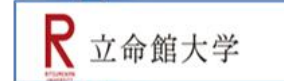
◆ 松浦機械製金属、樹脂3D造形技術開発



実用化・ネットワーク拠点



◆ ソフトロボティクス技術



◆ デボジション方式金属造形、樹脂3D造形技術開発



実用化支援

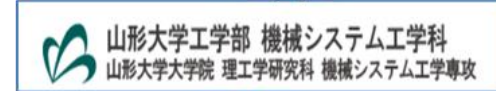
企業

産学連携

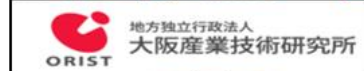
◆ CAEの活用、樹脂3D造形技術開発



◆ 世界初のゲル3Dプリンター技術



◆ 金属3D造形技術開発



◆ 世界初のラバー3Dプリンター技術、金属、樹脂3D造形技術開発



◆ 4Dプリンティング技術



◆ CG・CAD活用による設計、樹脂3D造形技術開発



3Dプリンター普及促進

3D積層造形によるモノづくり革新拠点化構想

◆ 3D3プロジェクト (全国45公設試連携)



◆ 金属3D : 三次元異方性カスタマイズ



◆ 3D造形のデザイナー、プレイヤーネットワーク



◆ 3Dレーザーコーティング技術



3Dものづくり 普及促進会

(株式会社立花エレテック)



近畿経済産業局

中小企業の成長発展を支援する
京都府中小企業技術センター

◆ 金属3D造形技術開発



◆ 世界初のラバー3Dプリンター技術、金属、樹脂3D造形技術開発

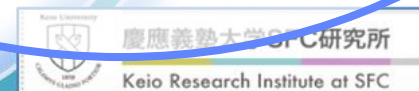


◆ CG・CAD活用による設計、樹脂3D造形技術開発



山形大学工学部 機械システム工学科
山形大学大学院 理工学研究科 機械システム工学専攻

◆ 4Dプリンティング技術



人基軸経営

社員が幸せを感じている会社は発展する

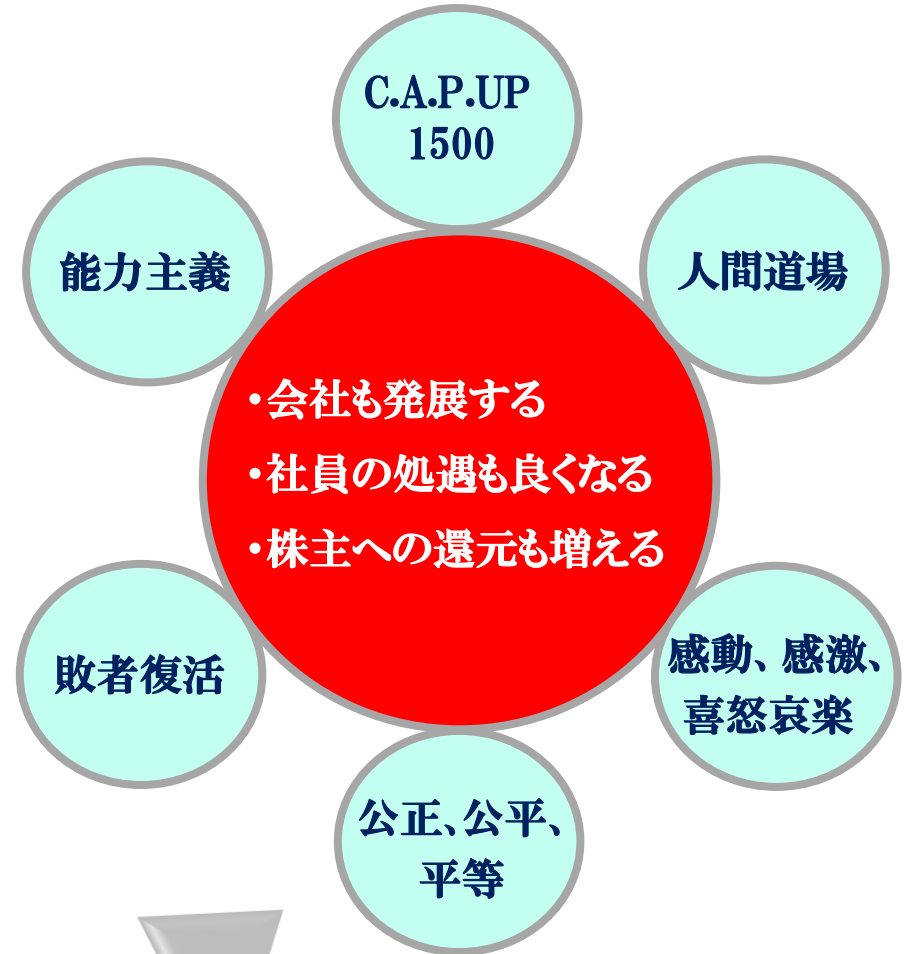
人は幸せを感じられる間は、無理難題にも挑戦し成長を続ける

人は難しい課題を乗り越える事が出来た時に、感動・感激してやりがいを感じる

社員がやりがいを持ち、成長して力を発揮すれば、会社発展の原動力になる

会社が発展していれば、難しい課題を与え続ける事が出来る

会社を発展し続ける事が、経営の仕事



「商社の価値」は「売る力」の高い会社
徹底した営業力強化と体質改善の推進で「売る力」を高める



「C.A.P. UP1500」

*2008年スタート

「売る力」をつける



「営業力」と「マネジメント力」の強化

社員一人ひとりが実行力、実現力を高めること
で組織として最大の力を発揮することを目指す

**業務改善・効率化
費用削減意識を高める**

目的：人間力の醸成

「人間道場（立志館）」

社員OBなど“人生の先達”として
講師に招き、経験談などの
講演や対話を実施

知識研修後、会社の費用で
“飲みニケーション”

2008年から、延べ560回開催、10,335名参加
(2018年12月末)

南大阪ビル
(立志館)



中長期経営計画 『C.C.J2200』

2021年の創立100周年を見据えた2015年を初年度とする
6カ年の中長期経営計画『**C.C.J2200**』をスタート

「変わる」こと「挑戦する」ことで
さらなる「飛躍」に向け、新たな歩みを始めます

Change <変革>

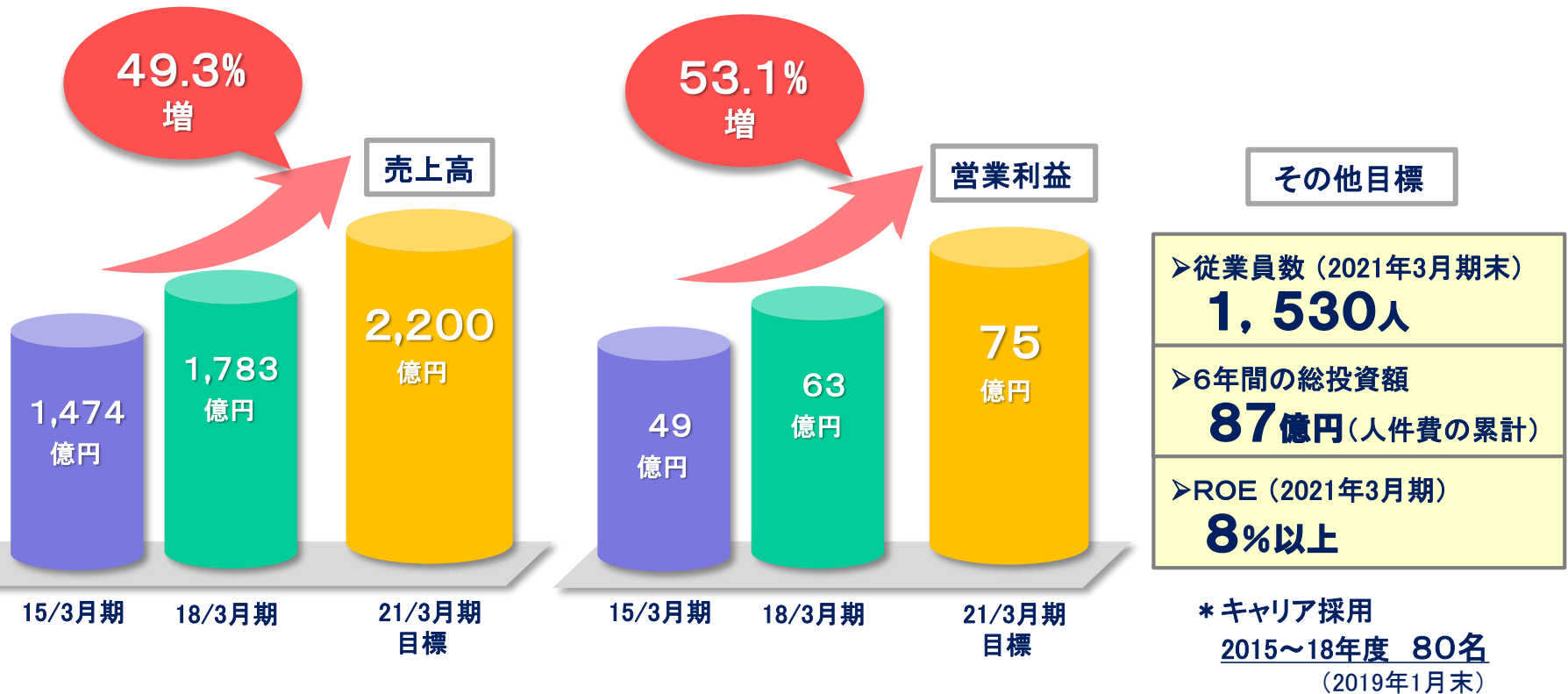
Challenge <挑戦>

Jump-up <飛躍>

連結売上高 **2,200**億円

『C.C.J2200』の目標

『確固たる基盤を持った 電機・電子の一大技術商社』を目指して



<2016⇒2018年3月期>

成長基盤の整備と基本戦略の着実な実行

<2019⇒2021年3月期>

成果の追求とさらなる成長の加速

① 地域のサービスレベルの均一化

- ✓ FAシステム事業における有望分野 (センサー・ロボット) への注力
- ✓ 施設事業、産業メカトロクス部門を中心に首都圏・中部圏で人材増強を図り、市場開拓へ注力

② 半導体デバイス事業をグローバル事業として強化

- ✓ 外資系半導体ビジネスを第三の柱へ強化
- ✓ 海外技術サポート力の強化
- ✓ 新規顧客への拡販注力

③ 自社保有技術によるシステムソリューションビジネス強化

- ✓ 産業用ロボットシステムビジネス推進
- ✓ 製造現場の生産性向上を実現する「M2Mシステム技術」の習得・向上及びIoT/M2M関連製品の品揃えの充実

④ 施設事業を第三の柱として主要事業化

- ⑤ 子会社とのシナジー効果アップ
- ⑥ 海外ビジネス強化
- ⑦ CSR経営の推進

売上目標

2,200 億円

■導入の目的

当社株式への投資の魅力を高め、より多くの皆様に中長期的に当社株式を保有して頂く為に導入。

■優待制度の内容

保有株式数及び継続保有期間に応じて『クオカード』を年1回贈呈
長期保有者は、さらに優遇(増額)
(2021年3月末まで3年以上継続保有者に優遇)



保有株式数	継続保有期間	
	3年未満	3年以上
100株以上1,000株未満	2,000円分	3,000円分
1,000株以上	3,000円分	5,000円分

■株価推移(2018/3/1~2019/2/28)

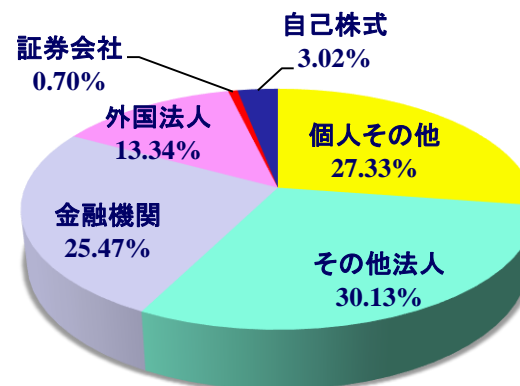


■発行済株式総数 26,025 千株
(自己株式786千株を含む)

■株主数 5,715 名

--2018年9月30日現在--

■所有者別株式分布状況



**ご清聴いただき、誠にありがとうございました。
今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。**

本資料中の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。

そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績は言及または記述されている将来見通しとは異なる結果となることをご承知おきください。